

犬山の四季

春

犬山城周辺は花見の名所。犬山城を中心に、木曾川河畔一帯に約400本の桜が咲き誇ります。遊歩道の散策や、船上でゆったりとお殿様・お姫様気分が味わえる、犬山城遊覧船もおおすすめです。4月には「犬山祭」が開催され、豪華絢爛な車山が桜並木の城下町を練り歩きます。



毎年6月1日に開幕する「木曾川鵜飼」は、犬山の夏の風物詩。夜鵜飼では、ライトアップされた犬山城を背景に、かがり火を灯した幻想的な鵜飼観覧を楽しめます。8月1日から10日には木曾川で「日本ライン夏まつりロングラン花火」が開催され、花火と犬山城の豪華共演が見どころ。

夏



色鮮やかなモミジやイチョウなど、犬山城周辺が美しい紅葉に染まります。また、木曾川では期間限定で遊覧船を運航。優雅に紅葉見物はいかがでしょうか。また、日本庭園 有楽苑も紅葉の名所として知られています。犬山城とあわせて紅葉巡りが楽しめます。



秋

空気の澄んだこの季節は、天守最上階からの眺望が自慢。天気の良い日には、清流木曾川をはじめ、雪化粧した御嶽山や伊吹山まで見渡すことができます。そして、時には犬山城が雪化粧に包まれることも。水墨画の世界のような荘厳な美しさは、冬ならではの情景です。

冬



交通案内



電車でのアクセス

名鉄名古屋駅	名鉄快速特急・特急	約25分	犬山駅
名鉄金山駅	名鉄快速特急・特急	約30分	
中部国際空港駅	名鉄ミュースカイ	約55分	
上小田井駅	名鉄急行	約23分	
平安通駅	地下鉄上飯田線・名鉄小牧線	約34分	

車でのアクセス

小牧IC (名神高速)	約25分	犬山城第1駐車場
小牧北IC (名古屋高速)	約25分	
小牧東IC (中央道)	尾張パークウェイ経由 約25分	
岐阜各務原IC (東海北陸道)	約25分	

入場料金

※一旦ご購入いただきました入場券の再発券及び変更はできません。

区分	入場料	区分		
		一般	小中学生	
個人	一般	¥1,000		
	小中学生	¥200		
	団体			
		30人以上	¥900	¥180
		100人以上	¥800	¥160
		300人以上	¥700	¥140

※小中学生とは、6歳以上(小学就学の始期に達するまでのものを除く)であって、6歳に達した日から15歳に達する日以前の最初の3月31日までの間にあるものをいう。

国宝犬山城を含む共通券

※有効期限は購入日から3か月

犬山城下町周遊券	犬山城+犬山市文化史料館(城とまちミュージアム+IMASEN 犬山からくりミュージアム)+どんでん館	¥1,400 → ¥1,200
----------	--	-----------------

開場時間 9:00~17:00 (最終入場16:30まで)

休業日 12月29日~31日



愛知県犬山市犬山北古券65-2
Tel: 0568-61-1711(犬山城管理事務所)
<https://inuyama-castle.jp>

2026年3月現在

犬山城

国宝

Inuyama Castle,
National Treasure

現存最古の
天守



犬山城は、現存する最古の天守を持つ、
国宝五城の一つです。

信長・秀吉・家康 天下人が手にした名城

犬山城は、天文6年(1537)頃に築城されたとされています。天守は現存する日本最古のものです。

大河木曾川のほとり、小高い山の上に建てられた「後堅固の城」で、天守最上階からの眺めはまさに絶景です。

江戸時代の犬山城は中山道と木曾街道に通じ、真下を流れる木曾川による交易の要衝として栄えました。

三英傑がそれぞれこの城を手にして天下取りの足がかりとなりました。

以降、震災などの歴史の荒波をくぐりぬけ、今に残る犬山城天守をご覧ください。



犬山は城と城下町全体を堀と土塁で囲む「総構え」の構造になっています。犬山城へお越しの際は、犬山城下町のご散策もお楽しみください。

城郭の歴史

天文6年(1537)頃 築城

天文6年(1537)頃、織田信長の叔父、織田信康のぶやすによって木ノ下城から移転して築城されたといわれています。

永禄8年(1565) 織田信長が攻略

織田信長は従弟の犬山城主・織田信清のぶきよと対立し、犬山城を攻略しました。攻略後は、家臣の池田恒興いけだ つねあきに預けられました。

天正9年(1581) 織田信房入城

織田信長の四男・信房のぶふさが城主となりました。信房は天正10年(1582)、「本能寺の変」で父・信長と運命を共にしました。

天正12年(1584) 小牧・長久手の戦い 羽柴秀吉入城

天正12年(1584)、羽柴秀吉と徳川家康・織田信長の次男信雄のぶかつとの間で「小牧・長久手の戦い」がはじまりました。当時の犬山城主は織田信雄の家臣、中川定成さだなりでしたが伊勢に出陣していたため不在であり、秀吉軍の池田恒興が木曾川をわたり城内に侵入し、落城しました。後に秀吉が入城しました。

慶長5年(1600) 関ヶ原前哨戦

豊臣秀吉の死後、徳川家康(東軍)と石田三成(西軍)が対立しました。犬山城は関ヶ原の戦いの前哨戦で西軍方の武将たちが退去し、東軍に占拠されました。

元和3年(1617) 成瀬氏犬山城拝領

元和3年(1617)、徳川家康の重臣成瀬正成なるせ まさなりが拝領。正成が城主の時期、天守に改修が加えられ、現在の姿ができたといわれています。以後、成瀬家が幕末まで城主を務めることになります。



成瀬正成像(白林寺蔵)

明治4年(1871) 天守以外取り壊し・払い下げ

明治4年(1871)、廃藩置県で愛知県の所有となり、天守以外のほとんどの建物が取り壊されたり、払い下げされたりしました。



明治初年頃の犬山城(個人蔵)

明治24年(1891) 濃尾大地震で天守半壊

明治24年(1891)、マグニチュード8.4の「濃尾大地震」によって天守は半壊しました。同28年に修理を条件として愛知県から旧藩主の成瀬家に譲与され、成瀬家をはじめ多くの人々の支援により、無事修復されました。



明治24年の破損状況(犬山城白帝文庫蔵)

昭和10年(1935) 国宝に指定される

昭和10年(1935)、国宝に指定されました。犬山城天守は国宝五城(犬山城、松本城、彦根城、姫路城、松江城)の中で最も古いとされています。



大正時代の天守(犬山城白帝文庫蔵)

昭和40年(1965) 解体修理完了

昭和36年(1961)から4年にわたり天守の解体修理が行われました。全国唯一の個人所有の城として保存されてきましたが、平成16年(2004)、財団法人犬山城白帝文庫の所有となり、犬山市が管理を行っています。

天守の構造

天守からの眺めが最大の魅力

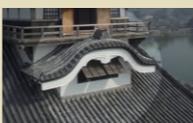
廻縁

四階の周囲に廻された縁で、外側に向かって傾斜がついている。



唐破風

城を華美に見せるため、中央が弓なり状にせり上がった破風。



魔除けの瓦

亀の甲羅に桃がのった形をした魔よけ。



天守の石垣

自然石をそのまま積み上げた石垣で、「野面積み」と呼ばれる。



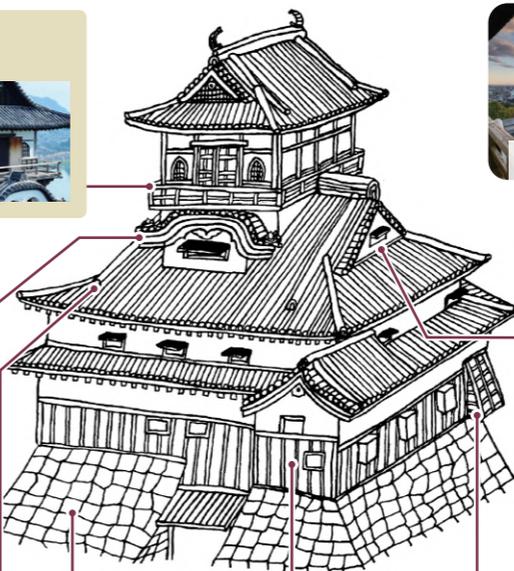
付櫓

天守の入り口が敵兵に破られないように、側面から攻撃を加えて防備する。



石落とし

「石落とし」は石垣より突出している防備で、矢や鉄砲で攻撃して石垣からの侵入者を防いだ。



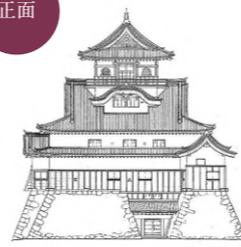
眼下に濃尾平野や木曾川の絶景を一望できる。対岸は岐阜県で当時の美濃国。晴天の日には名古屋駅や岐阜城も望むことができる。

入母屋破風

入母屋に造った屋根の端にある破風。



正面



断面図



外から見ると三重、中は四階の三重四階の構造です

四階(望楼)

赤いじゅうたんがしかれた高欄の間を、廻縁がまわる望楼となっている。



三階

南北の唐破風は成瀬正成によって改修されたといわれている。東西には入母屋破風が施されている。



二階

中央が武具の間で武具棚が備えられ、その周囲を武者走りが巡っている。



一階

中央部は第一の間、第二の間、上段の間、納戸の間の四室に分けられ、それらを武者走りが取り巻いている。



地下一、二階(穴蔵)

天守の出入口があり、天守を支える石垣や太い梁を見ることができる。

名称	国宝 犬山城 天守
別名	白帝城
立地	平山城
天守構造	望楼型・三重四階地下二階・複合式天守
天守の高さ	約19m
築城年	天文6年(1537)頃
築城者	織田信康(織田信長の叔父)
廃城年	明治6年(1873)
指定文化財	天守(国宝)、犬山城跡(史跡)
主な城主	織田氏・池田氏・平岩氏・成瀬氏